

令和5年度 京都市歴史資料館 評議委員会議

日 時 令和6年3月26日（火） 午前10時 開会

会 場 職員会館かもがわ 2F 大会議室

議 題 令和5年度事業報告説明

令和6年度事業計画（案）説明

歴史資料館運営予算について

京都市歴史資料館 評議委員会議 配布資料

資料 1 京都市歴史資料館評議委員名簿

資料 2 座席表

資料 3 京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

資料 4 令和 5 年度 事業報告

参考資料 別紙 1 概要

参考資料 別紙 2 利用状況

参考資料 別紙 3 資料の収集状況

資料 5 令和 6 年度 事業計画（案）

資料 6 京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

資料 7 令和 4 年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

京都市歴史資料館評議委員名簿

令和5年4月1日

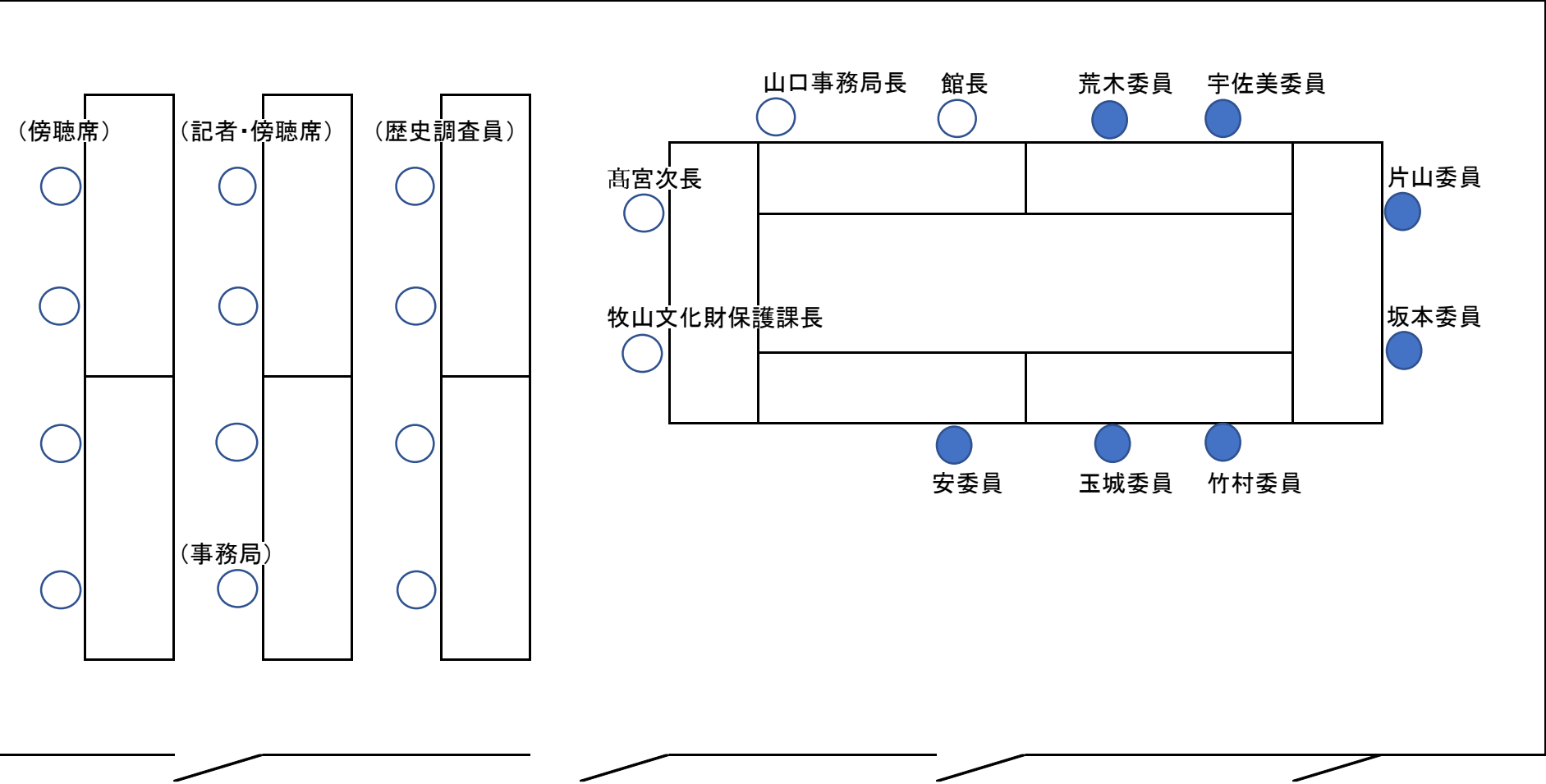
氏 名	役 職 等	専 門 分 野
荒木かおり	川面美術研究所 所長	彩色復元
宇佐美英機	滋賀大学 名誉教授	日本近世史・経営史
片山真理子	東京藝術大学 美術学部附属古美術研究施設 非常勤講師	美術史
坂本 博司	宇治市歴史資料館 前館長	地域史・食文化史
竹村 佳子	元学校歴史博物館 学芸員	生涯学習・社会教育
玉城 玲子	向日市文化資料館 館長	地域史・中世史
安 裕太郎	市民公募委員	

(敬称略，50音順)

京都市歴史資料館評議委員会議 座席表

日時: 令和6年3月26日(火) 午前10時～11時30分

場所: 職員会館かもがわ 2階 大会議室



京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

(平成 25 年 1 月 15 日決定)

(令和 3 年 3 月 29 日改正)

(趣旨)

第 1 条 京都市歴史資料館の展示、講座、調査研究その他の業務について、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、京都市歴史資料館評議委員会議（以下「会議」という。）を開催する。

(委員)

第 2 条 歴史資料館長（以下「館長」という。）は、学識経験のある者その他館長が適当と認める者のうちから委員を依頼し、意見を求めるものとする。

2 前項の規定により依頼する委員の人数は、7 人以内とする。

(任期)

第 3 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会議の招集)

第 4 条 会議は、館長が招集する。

(庶務)

第 5 条 委員に関する庶務は、歴史資料館で行う。

(補則)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、会議の開催に関し必要な事項は、館長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、決定の日から施行する。

(経過措置)

- 2 平成27年3月24日までの間、会議の委員の人数は、第2条第2項の規定にかかわらず、10人とする。
- 3 この要綱の施行の際現に京都市歴史資料館評議員規則に基づく京都市歴史資料館評議員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）に会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、施行日における京都市歴史資料館評議員としての任期の残任期間とする。

附 則

(施行期日)

この要綱は、決定の日から施行する。

令和 5 年度事業報告

1 展示

種 別	テ ー マ	内 容	期 間	入館者数 等	一日平均 ・ 経 費
特別展	文化庁移転記念・歴史資料館開館 40 周年記念 「京歴展！」	日本史はもとより、京都の歴史に関して多大な業績を残された林屋辰三郎氏の足跡を、燈心文庫をはじめとする寄贈資料を通じて辿りながら、京都の市政史編さん事業や歴史資料館の歩みについても振り返った。	10. 29～4. 23 (136 日間) 前期: 10. 29～1. 22 (65 日間) 後期: 1. 28～4. 23 (71 日間) ギャラリートーク 11. 24 ギャラリートーク 12. 7 ナイトミュージアム 12. 7 ギャラリートーク 1. 7 ギャラリートーク 2. 2 ギャラリートーク 2. 26 ナイトミュージアム 3. 8 ギャラリートーク 3. 8	・ 目標入場者数 13, 600 人 (1 日平均約 100 人) → 8, 783 人 (前期) 4, 266 人 (後期) 4, 517 人 12 人 5 人 7 人 25 人 13 人 17 人 15 人 12 人 【目録販売数】 310 部	65 人 182, 765 円 (前期) 66 人 231, 000 円 (後期) 64 人 231, 000 円
特別展	文化庁移転記念 「八瀬の歴史をまもり、伝える」	比叡山の西麓に位置する八瀬には古くから八瀬童子と呼ばれる人々が生活してきた。彼らが大切に伝えてきた後醍醐天皇の綸旨をはじめ、歴代の為政者が税免除の特権を認めた文書、近代の皇室の大喪・大礼に関する書類や装束などは、重要文化財に指定されている。こうした八瀬の歴史を物語る資料を後世に伝えるため、平成 22 年度から修理が進められてきた。本展では八瀬の歴史とともに、修理の成果についても紹介した。	4. 29～6. 4 (30 日間) ギャラリートーク 4. 29 ギャラリートーク 5. 17 ギャラリートーク 6. 2 歴史講座 5. 19 歴史講座 5. 25	・ 目標入場者数 3, 000 人 (1 日平均約 100 人) → 2, 988 人 12 人 19 人 24 人 30 人 30 人 【目録販売数】 314 部	99. 6 人 129, 690 円
特別展	文化庁移転記念 「祇園祭と町の風景ー館蔵品をひもとけばー」	京都に関わる様々な歴史資料を収集した館蔵資料の中から、祇園祭や、それに携わる人々が残した資料、町の風景がうかがえる資料を紹介した。 (主な展示品) ・ 祇園会御鬘札 ・ 方広寺大仏殿図 ・ 昭和 30 年代の京都町並パノラマ写真	6. 10～9. 17 (85 日間) ギャラリートーク 6. 15 ギャラリートーク 7. 16 ギャラリートーク 8. 9 ギャラリートーク 9. 3	・ 目標入場者数 8, 500 人 (1 日平均約 100 人) → 7, 679 人 13 人 33 人 24 人 28 人 【目録販売数】 作成なし	90. 3 人 62, 150 円
特別展	文化庁移転記念 「人びとは、京をどう生きたか？ー館蔵品をひもとけばー」	京都に関わる様々な歴史資料を収集した館蔵資料の中から、町奉行の役人たち、先祖の顕彰、市井の日常など、京都と人の関りをうかがえる資料を紹介した。 (主な展示品) ・ 京都武鑑（慶応 2 年版） ・ 立入宗継位記 ・ 新選京都名所圖會 ・ 京都町奉行組屋敷図 ・ 「平安紋鑑」石版	9. 24～12. 24 (76 日間) ギャラリートーク 9. 27 ギャラリートーク 10. 18 ギャラリートーク 11. 15 ギャラリートーク 12. 17	・ 目標入場者数 7, 600 人 (1 日平均約 100 人) → 5, 327 人 14 人 30 人 24 人 28 人 【目録販売数】 作成なし	70. 1 人 40, 480 円

第2 展示室 企画展	「上野伊三郎家文書の 建築図面」	「上野伊三郎家文書」資料について、(公財) ポーラ美術館振興財団の調査研究助成を受け、目録整備を中心に調査・研究を進めた。その成果報告としてパネル展示を実施した。	2. 2～4. 23 (68 日間)	—	—
第2 展示室 企画展	「ちょこっと見学、文化 財修理の工房」	重要文化財「八瀬童子関係資料」は、京都国立博物館にある文化財保存修理所で修理が行われている。文書・記録類は株式会社修美、装束類は株式会社松鶴堂が担当し、文書・記録類の修理は現在も続いている。展示では、修理の際に、それぞれの工房で使用された道具類や材料を紹介した。	4. 29～6. 4 (30 日間)	—	—
第2 展示室 企画展	岩倉具視の見た世界Ⅱ ～ヨーロッパ大陸の諸 国～	歴史資料館では幕末・維新の政治家である岩倉具視の関係資料を所蔵している。明治4年(1871)、アメリカ・ヨーロッパ諸国への使節の派遣が決まると、岩倉は特命全権大使となる。展示では、明治6年(1873)に使節団が訪問したヨーロッパ大陸の諸国を『米欧回覧実記』の銅版画で振り返った。『米欧回覧実記』は、各国の歴史や地理、政治・経済・社会・軍事・教育・文化・風俗などを紹介し、銅版画などの図版を300点以上収録している。	6. 10～12. 24 (161 日間)	—	—
市役所 分庁舎 1F ロ ビーで パネル 展示	第1期 プレイバック 「こんにちは京都市電」	京都市歴史資料館では、令和3年度に京都市文化財保護課と京都市電関係資料調査会の監修のもと、特別展「こんにちは京都市電—京都市電関係資料をひもとく—」を開催した。 今回のパネル展では、そのプレイバックとして、特別展で使用した京都市電の写真や車体の図面など、11点のパネルを紹介した。	2. 2～2. 21 (13 日間)	—	—
	第2期 黒川翠山 京都を撮る—古写真の 世界—	明治から昭和に活動した京都出身の写真家・黒川翠山が撮影したガラス乾板について、令和5年度の文化庁の補助金を活用して、デジタル化を行った。その成果報告としてパネル展示を実施した。	2. 22～3. 28 (24 日間)		

(参考) 会期中、原則毎月1回ギャラリートーク(概ね1時間)を行っている。

※館内設備メンテナンス(空調機器、照明LED化)の為、令和5年12月26日～4月2日(74日間)を閉館

2 講座等

講 座 名	テーマ・内容	開催月日	会場	講師	受講者数・経 費
歴史講座 ※「八瀬の歴史を まもり、伝える」 展示関連	「100年先の未来へー12年間の文化財 修理事業の成果からー」 講師：地主 智彦（文化庁参事官（生活文化 創造担当）付地方展開企画調整官） ○参加費：無料	5. 19	歴史資料館 展示室	左記	30 人 11,137 円
	「八瀬と八瀬童子」 講師：宇野 日出生（元京都市歴史資料館歴 史調査担当係長） ○参加費：無料	5. 25	歴史資料館 展示室	左記	30 人 33,411 円
ワークショップ	文化庁移転記念 子ども向けワークショップ「自分の花押を 作ろう！」 ○参加費：500 円	8. 11	歴史資料館 展示室	野地	46 人 0 円 【収入】 23,000 円
連続講座 「古文書を楽し く読もう！」	A組「古文書入門」 B組「史料で読む天保10年の豊年踊り」 ○参加費：4,000 円	春期連続講座 5. 24～ 毎水 4 回	職員会館 かもがわ	野地 吉住	37 人 39 人 68,000 円 【収入】 304 千円
A組：初級編 13時30分～ B組：中級編 15時30分～	A組「長刀鉾町文書をよむ」 B組「農村の古文書を読んでみる～庄屋の仕 事～」 ○参加費：4,000 円	秋期連続講座 10. 18～ 毎水 4 回	職員会館 かもがわ	秋元 井上	18 人 36 人 68,000 円 【収入】 216 千円
トークイベント	文化庁移転記念 「井上満郎館長 秋夜のトークライブ」 ○参加費：1,000 円	10. 5	歴史資料館 展示室	井上 館長	42 人 5,500 円 【収入】 42 千円
連続講座 「古文書で読み 解く京都の歴史」	I 組「神社・社家の古文書を読む」 II 組「桎原宿の古文書を読む」 ○参加費：4,000 円	冬期連続講座 2. 6～ 毎火 4 回	職員会館 かもがわ	宇野 松中	35 人 26 人 68,000 円 【収入】 244 千円
ギャラリートーク	「八瀬の歴史をまもり、伝える」展示関連	4. 29 5. 17 6. 2	歴史資料館		12 人 19 人 24 人
	「祇園祭と町の風景ー館蔵品をひもとけば ー」展示関連	6. 15 7. 16 8. 9 9. 3	歴史資料館		13 人 33 人 24 人 28 人
	「人びとは、京をどう生きたか？ー館蔵品を ひもとけばー」展示関連	9. 27 10. 18 11. 15 12. 17	歴史資料館		14 人 30 人 24 人 28 人

3 講師派遣(他機関主催講座等への出講)

講 座 名	テーマ・内容	期日	会 場	講師	受講者数
アスニー京都学講座	「禁裏御倉職立入家のあゆみ」	10. 28	京都アスニー	野地	63人
京都府視覚障害者協会講座	「応仁の乱の謎」	11. 16	ライトハウス	井上	70人
宿場町・榎原の歴史講座	「榎原宿のもてなし」	11. 19	榎原本陣	松中	40人

4 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集について、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行いました。

(1)収蔵品台帳・目録の整備

歴史資料館の使命は、「京都の歴史に関する資料の保存及び活用を図り、市民の文化の向上及び発展に資する」ことですが、館蔵品・寄託品の受入が増え続け、その数が膨大となり、内容の把握が十分とは言えない状況となっていることから、令和5年度においても、引き続き、収蔵品台帳・目録（画像データも含む。）の再整備を重点的に進める取組を実施しました。

目録を作成する過程で重要性が明らかになった資料については、市指定文化財の指定に繋げ、長く保存・活用できるようにします。また、作成した目録については、ホームページ等での公開を通じて、市民等の活用に資することを目指します。さらに、詳細な調査・研究を必要とする貴重な資料については、大学等と共同研究を行い、その成果をホームページや出版物で発表・活用し、広く市民等の活用還元する道筋を明らかにしていきます。目録・画像データをデジタル化することにより、検索を容易にし、インターネット等において収蔵品の魅力の発信に努めていきます。

【松中、秋元、尾下、吉住、野地、井上】

(2)京都女子大学母利研究室との連携による善峯寺・金蔵寺調査

8月17日～18日に現地での資料調査を行いました。

【秋元、野地】

(3)国文学研究資料館との連携による山本家等資料調査及び画像データ作成

令和4年度から3ヵ年の予定で実施される国文学研究資料館の研究会に参加し、山本家典籍（京都市指定文化財）など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する共同研究に参加しました。

また、国文学研究資料館が、山本家典籍（京都市指定文化財）をデータベース化するため、画像データの作成を行っています（諸費用は国文学研究資料館が負担。）。

【松中】

(4)大谷大学による今江家文書調査

所蔵者の了解の下、大谷大学へ今江家文書を貸し出し、京都市の指定に向けた調査を行いました。文書は大学博物館収蔵庫にて管理します。

また、市指定に先行して当館において資料の整理作業を行っております。

【松中、文化財保護課】

(5)東京大学史料編纂所による岩倉具視関係資料調査

東京大学史料編纂所において、「財団法人岩倉公旧跡保存会」から京都市に寄贈された岩倉具視関係資料のデジタル撮影を行いました。

- ・令和5年6月27日～7月7日 撮影（光楽堂）
- ・令和6年2月28日～3月1日 撮影（光楽堂）

【松中】

(6)八瀬童子関係資料の修理

当館に寄託されている重要文化財八瀬童子関係資料の文書・記録類650点のうち、令和5年度分50点の修理を行いました。読売新聞社「紡ぐプロジェクト」の助成金を受けています。

【松中】

(7)東京大学資料編纂所による上賀茂社家の資料調査

東京大学史料編纂所において、当館寄託の岩佐家文書のデジタル撮影を行いました。

- ・令和5年11月30日～12月2日 撮影
- ・令和6年1月19日～1月21日 撮影

【松中】

5 「研究紀要の刊行」

『京都市歴史資料館紀要』第30号を刊行しました。

【秋元】

6 「叢書 京都の史料」の再版

平成27年度刊行、令和2年度再版の「内裏図集成 京都御所と公家町」及び令和元年度刊行の「京都摺物集成～江戸時代の京のにぎわい～」を再版しました。

【吉住】

7 「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業への協力

山鉾連合会は、2023年に設立100周年を迎えることから、近代の祇園祭の資料調査を行い、その研究成果を蓄積し、記念誌などが作成されます（令和2年度から6年度の5ヵ年事業）。

このうち、山鉾町関連資料や八坂神社関連資料の調査に協力しています。

【野地：山鉾町関係、吉住：八坂神社関係】

8 TOPPAN「古文書解読スマホアプリ「古文書カメラ」」開発への協力

TOPPAN(株)がAIを活用した古文書解読支援システム「ふみのはぜみ」を開発、そのアプリ版を開発するにあたり、実証実験に協力しました。アプリは6月1日に公開されました。

【松中】

9 Innovate MUSEUM事業(旧「地域と共働した博物館創造活動支援事業」)

(京都の複数の歴史文化施設がクラスターを形成し、多様な事業を展開)

地域の文化財の魅力発信、地域振興など、美術館・歴史博物館を中核とした関係機関との連携による文化クラスター創出に向けた取組を支援する文化庁の補助事業を活用した「京都歴史文化施設クラスター実行委員会」に参画しています。

令和5年度は、所蔵する黒川翠山のガラス乾板をデジタル撮影し、目録の作成を行いました。【野地】

10 資料館外貸出

他の博物館や美術館での展覧会に、当館の館蔵及び寄託資料を貸し出し出陳する依頼があった場合、貸出申請の手続きや資料の貸出・返却時に立ち会うなどの業務を行いました。

【井上、尾下】

11 画像利用許諾

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で資料の撮影や画像使用を希望される場合、特別利用や掲載許可の申請手続や画像データの提供・撮影時の立ち会いなどを行いました。

—特別利用の申請—

- (1) 原資料を写真撮影・ビデオ撮影する。
- (2) 上記(1)で撮影した画像や当館が提供した画像データを使用して、テレビ番組等で放送したり、オンデマンド配信する。
- (3) 大学の授業や各種講演会の際に、PowerPoint等で画像を使用し、それをオンデマンド配信する。

—掲載許可の申請—

- (4) 出版物に図版として写真を掲載する（電子書籍版も含む）。

※歴史資料館の所蔵資料の画像データについては、従前は使用目的を問わず、無料で提供していましたが、出版物等の商業目的については利用者に一定の利益が見込まれることから、令和3年度から「京都市歴史資料館貴重資料特別利用取扱要綱」に基づき、画像貸出に係る経費を負担願っています。

【井上、尾下】

12 貴重資料閲覧

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で原資料の閲覧を希望される場合、貴重資料の閲覧許可申請の手続きや貴重資料の閲覧に立ち会うなどの業務を行いました。

- (1) 閲覧希望資料が整理中で、未だ写真撮影がされていない。
- (2) 撮影済みで写真帳として公開しているが、写真では不鮮明な細部の確認を必要とする。
- (3) 博物館や美術館での展覧会に原資料の出陳を申請するに際しての事前調査。

【井上、尾下】

13 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査を行いました。

(参考) 指定件数 1,792 件 (令和5年3月31日現在)

市参事会文書 156 件、編入市町村引継文書 573 件、総合企画局国際化推進室文書 511 件、
総合企画局総合政策室文書 286 件、元離宮二条城事務所文書 51 件、その他 215 件

【秋元】

14 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めました。また市民の方からの歴史に関する相談に対応しました(参考資料 別紙2参照)。

【歴史調査員】

15 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行いました。

【井上】

16 博物館実習生の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施しました。

・期日 令和5年8月22～26日の5日間 京女・京都橘・同志社・大谷 計9人

【松中】

17 収蔵環境の向上

収蔵庫の環境を適切に保つため、引き続き IPM メンテナンス等を行いました。

更に、地方独立行政法人京都市産業技術研究所と、文化財の保護や修復、適切な保存及び収蔵環境の実現等に関する連携協定を締結（令和3年5月28日）し、収蔵環境調査を定期的実施しております。

18 広報活動・情報発信の強化

令和5年度も、ホームページ、Facebook、X（旧 Twitter）を利用し、情報発信の充実・強化に努めました。

○ デジタルアーカイブの取組

国文学研究資料館の HP において山本家典籍を公開

国の文化遺産オンラインの HP において黒川翠山のガラス乾板を公開

○ Facebook、X（旧 Twitter）

展示情報やイベントの案内、館蔵品の紹介、及び歴史調査員の日頃の研究活動などを掲載

19 空調設備更新事業及び照明設備の LED 化事業

歴史資料館は、令和4年度に開館40周年を迎え、施設の設備更新等が必要となってきました。そこで、令和5年度は、一般空調設備の改修工事及び照明設備の LED 化事業を実施し、館運営の機能維持に努めました。

京都市歴史資料館の概要

	京都市歴史資料館（昭和57年10月 設立）
事業 内容	京都市域の古文書を中心とした歴史資料の収集・保存・調査・研究・公開
収 集 資 料	・一次資料（古文書）：約195,450点 ・写真複写（古文書）：約2,135,700コマ ※2年度～デジタル化（目録）：約15,151点 （写真）：約16,737枚 ・マイクロフィルム（新聞）：約1,280,000コマ ・歴史一般図書：約26,760冊 ・美術工芸品、民俗資料：約210点
調査 研究 事業	・史料叢書の出版 ・研究紀要の発行
公 開 事 業	・特別展示、テーマ展示、企画展示 ・DVD映像 ・市民対象の各種講座 ・図書、資料の閲覧 ・歴史相談 ・情報システム「フィールドミュージアム京都」発信
特 徴	・「京都市政史」及び「叢書 京都の史料」編さん等を通して、積極的に資料収集を行ってきたが、その中心となるのは文献資料である。 ・公文書館ではない。 ・調査・研究を積極的に行っている。
施設 状況	・ 地上2階・地下1階 ・ 敷地面積 1,183 m² ・ 延床面積 2,016 m²

（令和6年1月31日現在）

歴史資料館の利用状況について

年度	年度合計			土日関係			閲覧件数			相談件数			
	入館者数	開館日数	1日当り	入館者数	開館日数	1日当り	件数	図書	古文書	件数	電話	来館	郵便
28	21,957	286	77	9,948	101	98	1,440	1021	419	799	427	353	19
29	20,096	285	71	8,764	99	89	1,200	871	329	710	392	303	15
30	18,730	283	66	8,028	96	84	1,201	893	308	623	338	277	8
元	26,339	280	94	10,373	94	110	1,178	775	403	568	272	282	14
2	18,897	252	75	7,305	87	84	748	481	267	501	307	173	21
3	26,786	229	117	11,871	79	150	605	426	260	396	263	121	12
4	20,077	261	77	7,754	96	81	795	445	350	412	230	172	10
4 (4～1月)	16,905	219	77	6,784	82	82	695	388	307	320	172	139	9
5 (4～1月)	17,158	211	81	7,115	77	92	661	379	282	436	240	185	11

【参考】前年度比(4～1月)数値比較(5年度／4年度)

○ 入館者数 ⇒ 1.5 %増 ○ 土日入館者数 ⇒ 4.9 %増
 ○ 閲覧件数 ⇒ 4.9 %減 ○ 相談件数 ⇒ 36.3 %増

歴史資料館ホームページアクセス数

年度	トップページ	1日当たり
28	53478	147
29	69,874	191
30	83,314	228
元	99,021	271
2	64,487	177
3	48,055	132
4	11,024	30
4 (4～1月)	9,774	32
5 (4～1月)	30,005	98

【参考】前年度比(4～1月)数値比較(5年度／4年度) …307 %増

※4年度は文化市民局全体で77.6%減

京都市情報館ホームページ作成支援システムアクセスカウント数

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、
 令和2年度は、4月7日～5月17日の32日間を閉館。
 令和3年度は、4月25日～5月31日の28日間と
 8月20日～9月30日の37日間の計65日間を閉館。
 ※館内設備メンテナンス(空調機器、照明LED化)のため、
 令和5年は、12月26日～4月2日の74日間を閉館。

資料の収集状況について

1 館蔵資料の受入れ状況

(受入れ件数は、R5. 3. 31 現在)

	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	総 数
一次資料（古文書）	約 610	－ ※1	約 2, 500	約 6, 450	約 195, 450 点
写真複写（古文書）	－	－	－	－	約 2, 135, 700 コマ
2 年度～デジタル化 ※2					
目録		1, 708	6, 431	7, 012	約 15, 151 点
写真		8, 633	1, 084	7, 020	約 16, 737 枚
マイクロフィルム・ デジタルデータ（新聞）	約 20, 000	約 20, 000	約 20, 000	約 20, 000	約 1, 280, 000 コマ
図 書	約 210	約 260	約 260	258	26, 760 冊
美術工芸品等	絵画，屏風，秤，枡，町旗，籠，消火器，つづら，祭具等 約 210 点				

※1 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、鑑定評価委員会が開催できなかったため、一次資料（古文書）等の受入れは無い。

※2 古文書等のデジタル化は、館所蔵のうち、重要資料やデジタルデータの活用が見込まれるものから重点的に実施している。

2 収蔵資料文化財指定の状況

	件数	点数	内 訳
重要文化財	5 件	3, 900 点	兵庫北関入船納帳 1 冊 福井家旧蔵京枡座関係資料 2, 139 点 八瀬童子関係資料 741 点 岩倉具視関係資料 1, 018 点 古今和歌集 下 1 冊
市指定・登録文化財	25 件	13, 201 点	岩倉具視関係資料 109 点 賀茂季鷹関係典籍類 1, 268 点 京都市参事会文書 158 点 等

3 寄付受納物件（過去 5 年間）

年 度	品 名	数 量	寄 贈 者
平成 29 年度	古文書など	約 60 点	杉村 正臣
	古文書	約 30, 000 点	田中 子朗
	古文書	11 点	田村 昌巳
	絵図	2 点	上田 壽一

	絵はがき	7 点	雁瀬 一郎
	古文書	1 点	倉内 仁
	古文書	7 点	岩佐 敦子
	古文書・看板	1 点・4 点	西田 俊一
	古文書・木箱	44 点・1 箱	武内 一樹
	掛軸・短冊	66 点	澤井 多年夫
平成 30 年度	古文書	1 点	鹿谷 逸郎
	古文書	2 点	中井 博一
	古文書	約 50 点	大嶋 正博
	古文書・書画・版本	40 点	福田 叡子
	図面・書類など	約 260 点	間野 嘉津子
	鉢巻・地図	5 点	藤野 正弘
	和菓子関係道具類	118 点	杉谷 禎治
	版本・洋装本・写本	924 点	西山 洋
	額	2 点	大岡 千鶴子
令和元年度	絵葉書集など	8 点	文寿 誠二
	胸像	1 点	大野 茂
	写真など	140 点	山根 渉
	図書	1 点	山添 敏文
	古文書・装束など	約 60 点	小西 弘泰
	絵図	1 点	田中 良夫
	絵葉書	10 点	中野 繁成
	地藏盆飾り・祠	一式・1 棟	下高倉町
	地藏盆前掛など	4 点	本能寺町
	陣笠・肖像・書状など	約 50 点	後藤 欣哉
	古文書	165 点	門田 邦代
	古文書など	154 点	福屋町内会
	カメラ・レンズ・アルバム	7 点	塩見 昌平
令和 2 年度	—	—	—
令和 3 年度	古文書など	9 点	矢野 昭子
	古文書・絵図	約 4 8 0 点	上田 寿一
	古文書など	約 2 0 0 点	佐竹 泰子
	絵図	1 舗	小野 恵美子
	額	2 面	泉 信之
	香合	1 合	北川 弘子
	版本・古文書・短冊など	6 2 点	小石原 頼子
	絵葉書・写真など	約 1 1 0 0 点	石原 ゆう子
	絵図・古文書など	約 2 2 0 点	山下 久恵
	絵図・図面・古文書など	5 3 点	荒川 朋彦

	古文書，看板	3 点	梅原 容子
	古文書など	1 5 9 点	高原 北雄
	写真	1 点	遠山 雅夫
	写真	2 1 7 点	吉田 泰子
	絵図など	4 点	福田 叡子
	屏風	1 双	岡本 昌也
令和 4 年度	古文書など・掛幅・龍吐水	約 1 5 3 0 点・2 1 幅・1 点	奥田 尚子
	音声資料カセットテープ	1 0 点	西川 祐子
	写真・辞令など	約 4 5 0 点	渡辺 昇
	賞状・感謝状など	約 2 0 0 点	小川 壽子
	図面など	2 8 点	大野 義男
	古文書など・掛幅	4 1 0 0 点・2 0 幅	棕本 正江
	図書	2 冊	岩崎 眞
	絵葉書など	2 5 点	水戸 信一
	地図	1 点	渡部 眞一
	写真など	3 0 点	木村 敦子
	古文書など	2 5 点	松本 一男

※令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、鑑定評価委員会が開催できなかったため、寄付受納物件は無い。

令和 6 年度事業計画（案）

1 展示

種 別	テ ー マ	内 容	期 間	目標入場者数
特別展	京都と源氏物語 ～受け継がれし物語～	令和 6 年の大河ドラマは紫式部と『源氏物語』。京都市の関連施設でも、ちなんだ展示を行うなかで、歴史資料館では千年以上を経た現在もなお受け継がれた物語として、平安時代から江戸時代までを対象とします。平安京の遺跡からの出土遺物を借用し、館藏品・寄託品を中心に『源氏物語』に関連した典籍類や屏風、文化的な交流を記した書状から年中行事の摺物まで、後世の京都に残る『源氏物語』ゆかりの資料と人びとの受容を紹介します。	4. 3～6. 23 (71 日間)	・目標入場者数 7,100 人 (1 日平均約 100 人)
特別展	京にいきる町衆・文化―下村忠兵衛がのこした古文書―（仮題） *個人所有古文書調査事業の成果 1	令和元年度から 4 箇年事業として文化庁「地域活性化のための特色ある文化財調査・活用事業」の国庫補助を受けて実施した京都市内個人所有古文書調査事業（「下村家文書」「熊谷家文書」調査）の成果に基づく展示企画の第 1 弾。京都の呉服商・下村忠兵衛が保管していた古文書を中心に、「下京三町組」の関係文書などから、町代改義一件や祇園祭を支えてきた京の町衆の文化と歴史をたどります。	6. 29～9. 1 (56 日間)	・目標入場者数 5,600 人 (1 日平均約 100 人)
特別展	京の災害と救済―熊谷家文書の世界―（仮題） *個人所有古文書調査事業の成果 2	個人所有古文書調査事業の成果に基づく展示企画の第 2 弾。幕末・維新期の激動の京都で、災害に立ち向かい、被災者に救いの手をさしのべた町人・熊谷久右衛門の活動に焦点をあて、同家に伝来する古文書や摺物を紹介します。	9. 7～10. 13 (32 日間)	・目標入場者数 (3,200 人 (1 日平均約 100 人)
特別展	賀茂季鷹と古典の「知」―京都市歴史資料館寄託山本家資料展―	賀茂季鷹は賀茂別雷神社（上賀茂神社）の神職で、江戸時代後期を代表する歌人です。本展示では、季鷹を中心とした、江戸の〈知（インテリジェンス）〉の実相とその豊かさを紹介します。季鷹の関係典籍類の寄託を受けている歴史資料館では、令和 4 年度から国文学研究資料館の共同研究に参加しており、本展示は、その研究成果を反映するものです。	10. 19～11. 24 (32 日間)	・目標入場者数 (3,200 人 (1 日平均約 100 人)

特別展	二条城から二条離宮への軌跡（仮題）	元離宮二条城事務所との連携企画展。平成 29 年（2017）から本格修理が行われてきた本丸御殿の竣工を記念して、従来あまり知られてこなかった二条城から二条離宮、そして京都市に下賜されて元離宮二条城となったその歴史を、史料から紹介します。令和 2 年度に京都市歴史的公文書に指定された元離宮二条城事務所文書をあわせて初公開します。	11. 30～2. 22 (65 日間)	・目標入場者数 (6, 500 人) (1 日平均約 100 人)
特別展	館蔵品をひもとけば 3 (予定)	-	-	-

2 講座等

講 座 名	テーマ・内容	開催月日	会場	講師
歴史講座	京都と源氏物語～受け継がれし物語～	5. 22	歴史資料館 展示室	吉住
特別講演会	紫式部とその時代ー『源氏物語』の背後世界ー	6. 2	職員会館 かもがわ	井上 館長
連続講座 「古文書を楽しく読もう！」	春期連続講座 A 組（初級編）13 時 30 分 B 組（中級編）15 時 30 分	5. 22、5. 29 6. 5、6. 12	職員会館 かもがわ	尾下 野地
	秋期連続講座 A 組（初級編）13 時 30 分 B 組（中級編）15 時 30 分	10 月～11 月	-	井上 吉住
歴史講座	京都市内個人所有古文書調査事業の成果から 1	7 月～8 月	-	-
	京都市内個人所有古文書調査事業の成果から 2	9 月	-	-
国文学研究資料館 との連携展示関連		10. 26	京都アスニー	松中
		11. 8	京都アスニー	中西※ 国文研
歴史講座	二条城から二条離宮への軌跡	12 月～1 月	-	-
連続講座 「古文書で読み解く 京都の歴史」	冬期連続講座 I 組（中級編）13 時 30 分 II 組（中級編）15 時 30 分	-	-	松中 宇野

3 講師派遣(他機関主催講座等への出講)

講 座 名	テーマ・内容	開催月日	会 場	講師
平安京創生館ボランティア養成講座	平安京の光景をさぐる	6. 8	京都アスニー	井上
京都府立鴨沂高等学校授業	-	-	鴨沂高等学校	井上

4 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集について、大学等の外部研究機関とも連携して進め、収集資料の整理・保管・研究を行います。

(1)収蔵品台帳・目録の整備

歴史資料館の使命は、「京都の歴史に関する資料の保存及び活用を図り、市民の文化の向上及び発展に資する」ことですが、館蔵品・寄託品の受入が増え続け、その数が膨大となり、内容の把握が十分とは言えない状況となっていることから、令和6年度においても、引き続き、収蔵品台帳・目録（画像データも含む。）の再整備を重点的に進める取組を実施します。

目録を作成する過程で重要性が明らかになった資料については、市指定文化財の指定に繋げ、長く保存・活用できるようにします。また、作成した目録については、ホームページ等での公開を通じて、市民等の活用に資することを目指します。さらに、詳細な調査・研究を必要とする貴重な資料については、大学等と共同研究を行い、その成果をホームページや出版物で発表・活用し、広く市民等の活用還元する道筋を明らかにしていきます。目録・画像データをデジタル化することにより、検索を容易にし、インターネット等において収蔵品の魅力の発信に努めていきます。

【松中、秋元、尾下、吉住、野地、井上】

(2)京都女子大学母利研究室との連携による善峯寺・金蔵寺調査

現地での資料調査を行います。

【秋元、野地】

(3)国文学研究資料館との連携による山本家等資料調査及び画像データ作成

令和4年度から3ヵ年の予定で実施される国文学研究資料館の研究会に参加し、山本家典籍（京都市指定文化財）など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する共同研究に参加しています。

また、国文学研究資料館が、山本家典籍（京都市指定文化財）をデータベース化するため、画像データの作成を行います（諸費用は国文学研究資料館が負担。）。

【松中】

(4)大谷大学による今江家文書調査

令和5年度に寄贈された今江家文書について、京都市の指定に向けた調査を行います。

【松中、文化財保護課】

(5)東京大学史料編纂所による岩倉具視関係資料調査

東京大学史料編纂所において、「財団法人岩倉公旧跡保存会」から京都市に寄贈された岩倉具視関係資料のデジタル撮影を行います。

【松中】

(6)八瀬童子関係資料の修理

当館に寄託されている重要文化財八瀬童子関係資料の文書・記録類650点のうち、令和6年度分の修理を行います。読売新聞社「紡ぐプロジェクト」の助成金を受けています。

【松中】

(7)東京大学資料編纂所による上賀茂社家の資料調査

東京大学史料編纂所において、当館寄託の岩佐家文書のデジタル撮影を行います。

【松中】

5 「京都祇園祭の山鉾行事」歴史資料調査事業への協力

山鉾連合会は、2023 年に設立 100 周年を迎えることから、近代の祇園祭の資料調査を行い、その研究成果を蓄積し、記念誌などが作成されます（令和 2 年度から 6 年度の 5 ヶ年事業）。

このうち、山鉾町関連資料や八坂神社関連資料の調査に協力します。

【野地：山鉾町関係、吉住：八坂神社関係】

6 TOPPAN「古文書解読スマホアプリ「古文書カメラ」」開発への協力

TOPPAN(株)がAIを活用した古文書解読支援システム「ふみのはぜみ」を開発、そのアプリ版を開発するにあたり実証実験に協力し令和 5 年度に公開されましたが、引き続き相互協力の進展をはかります。

【松中】

7 資料館外貸出

他の博物館や美術館での展覧会に、当館の館蔵及び寄託資料を貸し出し出陳する依頼があった場合、貸出申請の手続きや資料の貸出・返却時に立ち会うなどの業務を行います。

【井上、尾下】

8 画像利用許諾

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で資料の撮影や画像使用を希望される場合、特別利用や掲載許可の申請手続や画像データの提供・撮影時の立ち会いなどを行います。

—特別利用の申請—

- (1) 原資料を写真撮影・ビデオ撮影する。
- (2) 上記(1)で撮影した画像や当館が提供した画像データを使用して、テレビ番組等で放送したり、オンデマンド配信する。
- (3) 大学の授業や各種講演会の際に、PowerPoint 等で画像を使用し、それをオンデマンド配信する。

—掲載許可の申請—

- (4) 出版物に図版として写真を掲載する（電子書籍版も含む）。

※歴史資料館の所蔵資料の画像データについては、従前は使用目的を問わず、無料で提供していましたが、出版物等の商業目的については利用者に一定の利益が見込まれることから、令和 3 年度から「京都市歴史資料館貴重資料特別利用取扱要綱」に基づき、画像貸出に係る経費を負担願っています。

【井上、尾下】

9 貴重資料閲覧

館蔵及び寄託資料について、主に以下のような理由で原資料の閲覧を希望される場合、貴重資料の閲覧許可申請の手続きや貴重資料の閲覧に立ち会うなどの業務を行います。

- (1) 閲覧希望資料が整理中で、未だ写真撮影がされていない。
- (2) 撮影済みで写真帳として公開しているが、写真では不鮮明な細部の確認を必要とする。
- (3) 博物館や美術館での展覧会に原資料の出陳を申請するに際しての事前調査。

【井上、尾下】

10 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査を行います。

（参考）指定件数 1,792 件（令和 5 年 3 月 31 日現在）

市参事会文書 156 件、編入市町村引継文書 573 件、総合企画局国際化推進室文書 511 件、
総合企画局総合政策室文書 286 件、元離宮二条城事務所文書 51 件、その他 215 件

【秋元】

11 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めます。また市民の方からの歴史に関する相談に対応します（参考資料 別紙 2 参照）。

【歴史調査員】

12 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行います。

【井上】

13 博物館実習生の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施します。

・期日 令和 6 年 8 月 27～31 日の 5 日間 京女・京都橘・同志社・大谷・立命館

【松中】

14 収蔵環境の向上

収蔵庫の環境を適切に保つため、引き続き IPM メンテナンス等を行います。

更に、地方独立行政法人京都市産業技術研究所と、文化財の保護や修復、適切な保存及び収蔵環境の実現等に関する連携協定を締結（令和 3 年 5 月 28 日）し、収蔵環境調査を定期的の実施しております。

15 広報活動・情報発信の強化

令和 6 年度も引き続き、ホームページ、Facebook、X（旧 Twitter）を利用し、情報発信の充実・強化に努めます。

京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

[歳 入]

(単位：千円)

		6 年度 (案)		5 年度		4 年度		3 年度		2 年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
消費枠	刊行書籍販売	702	-	1,702	-	702	539	1,702	892	1,702	885
	資料コピー料金	300	-	300	-	300	302	300	180	300	186
	古文書講座受講料	1,080	-	1,080	-	768	628	768	324	384	184
	補助金等	-	-	-	-	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
		-		-		京都市の古文書調査事業		京都市の古文書調査事業		京都市の古文書調査事業	
	画像利用料	800	-	640	-	480	788	316	572	-	-
	展示解説書	420	-	420	-	430	217	-	-	-	-
	博物館実習等	100	-	100	-						
	寄附金	50	-	50	-	50	34	0	157	-	-
投資枠	市債・行政改革推進債	-	-	24,000	-	17,000	11,000	-	-	-	-
		-		空調設備更新事業／照明設備のLED化		特別収蔵庫等冷却水循環装置更新事業		-		-	
計		3,452	-	28,292	-	20,730	14,508	4,086	3,125	3,386	2,255

[歳 出]

		6 年度 (案)		5 年度		4 年度		3 年度		2 年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
消費枠	歴史資料館管理運営	18,318	-	19,182	-	14,029	11,933	13,987	13,376	13,987	13,192
	その他	-	-	-	-	2,050	1,992	2,050	2,034	2,000	1,980
		-		-		京都市の古文書調査事業		京都市の古文書調査事業		京都市の古文書調査事業	
		-	-	-	-	-	-	-	-	2,800	2,653
		-		-		-		-		京都市の文化財展	
		-	-	1,000	-	-	-	1,000	500	1,000	500
		-		資料叢書編さん		-		資料叢書編さん		資料叢書編さん	
		-	-	-	-	-	-	-	-	4,000	3,762
		-		-		-		-		歴史資料館収蔵資料のデジタル化等	
		50	-	50	-	50	34	0	157	-	-
		文化芸術振興基金積立金		文化芸術振興基金積立金		文化芸術振興基金積立金		文化芸術振興基金積立金		-	
		-		-		-		-		-	
投資枠	歴史資料館整備	-	-	27,990	-	17,970	12,767	-	-	-	-
		-		空調設備更新事業／照明設備のLED化		特別収蔵庫等冷却水循環装置更新事業		-		-	
計		18,368	-	48,222	-	34,099	26,726	17,037	16,067	23,787	22,087

※文化市民総務費を除く

令和4年度 京都市歴史資料館評議委員会議 摘録

1 日時 令和5年3月14日（火） 午後3時～午後4時30分

2 会場 職員会館かもがわ 2階 大会議室

3 出席者

評議委員：荒木かおり、宇佐美英機、片山真理子、坂本博司、竹村佳子、
中尾亮弘

京都市：文化市民局文化芸術推進室山口担当部長（事務局長）

文化財保護課牧山課長、文化財保護課安井係長

歴史資料館 井上館長、藤木次長、田頭、松中、秋元、吉住、野地、尾下

4 欠席者 玉城玲子

5 傍聴者 なし

6 議事運営

（1）開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

（2）開会あいさつ

（3）出席委員・出席者の紹介、配布資料の説明

（4）令和4年度事業報告、令和5年度事業計画、歴史資料館運営予算について説明
（資料4、5、6に基づき説明）

（5）質疑

【評議委員】「フィールドミュージアム京都」のwebサイトの作りがかなり古いですが、更新はないのか。

【京都市】現状維持である。予算上、更新は難しい。

【評議委員】その他についても、インターネットを使つての発信がされていない感じがする。

【京都市】情報発信については改善したいところだが、なかなかできず、苦慮している。

【評議委員】スマホに対応しないと、見られないサイトになりつつある。SNSでも、他の歴史資料館では、資料の画像を載せて解説があるが、京都市ではほぼ途絶えている。前回も、歴彩館のようなwebアーカイブの整備について発言したが、予算がないという回答であった。インターネット中心になっている現状、そこに予算をかけていただきたいと思う。

【京都市】課題として重々認識している。今後も引き続き検討したいと考えている。

【評議委員】（有料化した図録の）300円や200円という金額は、予算的には焼け石に水程度なのではないか、どれくらいの利益を見込んでいるのか。1000円でのトークライブも高額の利益ではない。有料にする意義はあるのか。

【京都市】（トークライブについては）公平性の観点も含めて、人数制限があり有料とした。館の運営上、それで賄えるかというのは、現実的には難しい。市の施設全般において料金を

見直すという議論があった中で、当館についても（入館料を）有料化すべきか検討したが、人の動線等、ハード的な問題があり、有料化は難しく、別の方法を探るということで、去年から、図録やトークライブなどの有料化をはかっている。金額については引き続き検討していきたいと考えている。かたや、市民の方から「無料で良かった」というご意見、SNSでの発信もあったりする。当館の在り方については、まだ議論を重ねていきたいと考えている。有料化させていただくことによって、図録であれば、質をあげていくということが必要。学芸サイドの知恵をフルで働かせて、有料の価値に見合った質にあげていくというような効果もあると思う。はじめたばかりではあるので、より良い形を作っていきたいと考えている。

【評議委員】今回の展示（「京歴展！」）で、博物館構想があったと知った。考古（資料館）もそうだが、スペースが小さすぎる。考古（資料館）の今の金箔瓦の展示はすごく面白いが、スペースが小さすぎて、もったいない。古い建物を活用しているのは理解できるが、スペース的に無理な状況になっていると感じる。もっと展示スペースがあったら多分全国から人が来ると思うが、建てることはままならないだろうということになると、結局インターネット上でもっと見てもらうという形になるかと思うが。

【京都市】建物の関係は重々認識している。今の市の財政的な問題を考慮すると大型なプロジェクトに着手できず、忸怩たる思いはある。今の施設の規模の中で、得意分野ともいえるべき、伸ばせるところはしっかり伸ばしていく、事業についても引き続き努力はしていきたい。

【評議委員】その話に関わって、京都市歴史資料館は寄贈・寄託資料は受け入れていくのか。この頃、全国的に寄贈は受け入れるけれど寄託は断るという館が増えている。器そのものが老朽化してきた、整備しなければいけないという話は理解したが、受け入れるスペースはあるのか。整備が済むまでは、寄託・寄贈を原則的にどういうふうにするのか。

【京都市】現状ではスペースがないのが一番の問題になっている。最終的にどういったものを寄贈・寄託として受けるかというのは個別の判断になってくる。

【評議委員】満杯であるならば、やはり何かの原則を立てておくべきだろうと思う。京都市の個人所有の古文書で、魅力的なものであれば受け入れると思うが、そうでないものはどうするのか、やはり基本的方針は持っておかないと。京都の大学との連携みたいな形で情報共有しながら、寄贈・寄託をしたいという市民がいた時に、どこかで受け入れないと、散逸する。

【京都市】他館がどうしておられるかという情報収集もして、今後、方針については十分検討して参りたい。

【評議委員】『京都の歴史』を編んだ時に集めた資料の家を一回追跡調査した方がいいと思うが、それは実施しているか。代替わりも進んでおり、次世代とつながるようにしないと、寄託資料は本当に難しくなる。各家の調査は本当に悉皆調査目録か、そうでないのか、というところもきちんと確認してもらいたい。

【京都市】寄託資料の契約者の引き継ぎについては、いくつかの事例で認識しているので、それについては調査する方向で現状考えている。併せてご指摘いただいた部分についても

検討したい。

【評議委員】京都女子大学との善峯寺の調査には、東大史料編纂所は関わっていないのか。善峯寺の資料の一部について、東大史料編纂所が持っている写真がある。

【京都市】史料編纂所は関わっていない。今回は悉皆調査で、当館含めいろいろな大学が入っている。調査は一段落して来年度は報告書をまとめるというスケジュールである。

【評議委員】東大史料編纂所が関わると、タイアップで大学の予算をつけてくれるという。岩倉具視だけではなくて、（編纂所は）いろいろ部門があるので、コネクションをつけておくといろんな学内の研究予算で協力してもらえるので、連携しておけばよいのでは。

【京都市】承知した。

【評議委員】建物では聞くが、外国人が文化財資料を買うケースはないのか。

【京都市】実際にそういった相談は聞いていないが、散逸する可能性も含め、注視はしていきたい。

【評議委員】

下村家、熊谷家文書の調査をしているが、書籍なりデータベースなりで公開される予定はあるか。

【京都市】今年度末に調査報告書を刊行する。調査報告書は300部印刷して、大学図書館などの主なところに寄贈する。個人所蔵文書なので、インターネットでの公開は現状検討中である。

【評議委員】デジタル化の時代で、全国的に文化財をデジタルアーカイブで利用しやすくなっている。まずはホームページを独立させて、そこからいろんな連携にもっていけるよう進めていただきたい。古文書の場合はスキャナやデジタル写真の高精細画像が残せるし、無策で廃棄されるよりはこういった画像で残しておく、記録保存していただくということも考えてもらえたらと思う。

【京都市】ホームページ、デジタル化の件も課題として認識している。検討して参りたい。

【評議委員】御所東の展示（「歴史資料館がある場所—御所の東の今と昔—」）の図録は、本当に興味深い冊子なのに、すごく地味に感じた。もっと広く一般にも読んでもらいたいと思う。

古写真のデジタル化のためのスキャン作業は地味だが、興味がある人にとっては面白い作業だし、例えばボランティアなど、歴史好きな方々に声をかけるなど、知的好奇心を満たしながら、一般市民をうまく巻き込んでマンパワーを充実させる仕掛けを考えてはどうか。職員を増員して、寄託寄贈の資料の整理をするというのは現実的ではないように思えるので、ボランティアというマンパワーを集約できるようなことを考えてみたらどうか。

もう一つは子供向けのワークショップで、少しハードルは高いかもしれないが資料を読むワークショップ、あるいは館員がどういうことをしているのかを公開するようなワークショップであれば、子供たちの歴史への興味も変わってくるのではないかと感じる。

【京都市】デジタル化にあたってのボランティアの活用については、凸版印刷のアプリ（く

ずし字翻刻)の開発協力として、各大学と連携して、学生と一緒に勉強しながら実証実験をやらせていただいているところではある。子供のワークショップは、花押を作って缶バッジにするという試みをさせていただいたが、小さいお子さんだけではなく高校生も来られ、好評であったが、その中でも子供さんの中では古文書講座を開いてもらえないかというご意見も出ており、資料をひもとくようなワークショップができればと考えている。

【評議委員】報告を聞いていると、フル活動している。逆にブレーキを踏んで、見直す、今、その方がかえって良いのでは。足し算ばかりではなくて、気分的に変えられる時があるので、がちがちに考えすぎないように、工夫することもこういう施設では重要ではないか。

【評議委員】地方の資料館でも、京都と関わりのある歴史の話が多い。京都市・京都府は、地元の資料を集めるというのが基本になるが、地方との関係の資料も集めるとなると膨大になる。京都市の市民だけでは財政的に支えられないので、コロナで人が来ないとどうしようもない、やっぱり全国から京都市の歴史は見たいというように PR して、全国から寄付を集めるなどしては思う。

【京都市】全国から電話での歴史相談は受け付けており、歴史調査員が熱心に回答していて大変好評である。修学旅行の学生さんが調査員に質問するということもあり、非常に好評で、お礼状も届いている。そういった形で京都市の歴史資料館としてはお役に立てているかと思う。

(6) 事務連絡

評議委員の改選と市民公募委員の退任について報告。

(7) 閉会挨拶